

北見沿岸海岸保全基本計画

令和 8 年 2 月

北 海 道

北見沿岸海岸保全基本計画 目次

1 計画の目的.....	1-1
1.1 策定の趣旨	1-1
1.2 計画の性格	1-1
2 海岸の保全に関する基本的な事項	2-1
2.1 海岸の状況及び保全の方向に関する事項.....	2-1
2.1.1 海岸の概要.....	2-1
2.1.2 自然特性.....	2-2
2.1.3 社会的特性.....	2-7
2.2 北見沿岸の問題点並びに長期的な課題と施策	2-11
2.2.1 海岸防護に関する事項.....	2-11
2.2.2 海岸環境に関する事項.....	2-16
2.2.3 海岸利用に関する事項.....	2-21
3 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項	3-1
4 北見沿岸の基本理念、基本方針	4-1
4.1 基本理念	4-1
4.2 基本方針	4-2

[変更理由]

国は、令和2年11月に、有識者で構成する「気候変動を踏まえた海岸保全のあり方検討委員会」の提言を踏まえ、海岸法に基づく「海岸保全基本方針」を変更し、気候変動を考慮した対策へ転換したところであり、令和3年8月には各海岸管理者に対し海岸保全施設の計画に必要な波の高さなど外力の設定方法が示された。

これらを受け、北海道では、令和4年9月より有識者による検討懇談会を設置し地形や気象条件に応じた波の高さの将来予測など技術的な検討を行い、気候変動による影響を考慮した設計外力の検討を行った。

今後、検討結果を踏まえた沿岸の長期的な海岸保全の基本的方向と施策を示すため、北見沿岸の「海岸保全施設の整備に関する基本的な事項」について変更する。

ゾーン区分及びゾーンのテーマ図



1 計画の目的

1.1 策定の趣旨

海岸は、国土狭隘な我が国にあって、その背後に多くの人命・財産が集中しているとともに、海と陸が接し、多様な生物が関係しながら生息している。また、近年、環境意識の高まりや心の豊かさへの要求にも対応する海岸づくりが求められている。

このようなことから、災害からの海岸の防護に加え、海岸環境の整備と保全及び公衆の適正な利用の確保を図り、これらが調和するよう、総合的に海岸の保全を推進するため、国が定める海岸保全基本方針に基づき、北見沿岸の海岸保全基本計画を策定する。

1.2 計画の性格

海岸保全基本計画は、国が定めた基本理念である「美しく、安全で、生き生きした海岸」を次世代に継承していくことを目指し、地域特性を活かしつつ、各沿岸の長期的な海岸保全の基本的方向と施策を示すものである。

なお、本計画は、地域の状況変化や社会経済状況の変化に応じ、適宜見直しを行う。

2 海岸の保全に関する基本的な事項

2.1 海岸の状況及び保全の方向に関する事項

2.1.1 海岸の概要

北見沿岸は北海道北東部に位置し、稚内市、紋別市、北見市、網走市の4市、浜頓別町、枝幸町、雄武町、興部町、湧別町、小清水町、斜里町の7町、猿払村の1村からなる宗谷岬から知床岬までのオホーツク海に面する海岸である。

総延長約409kmの海岸線は北海道の海岸線延長の13.6%を占めている。沿岸域には日本に残された最後の原始地域といわれ、世界遺産（自然遺産）に登録された「知床国立公園」、七つの海跡湖からなる「網走国定公園」、ラムサール条約に指定されたクッチャロ湖を有する「北オホーツク道立自然公園」など豊かで雄大な自然、優れた景観、常呂遺跡、最寄貝塚等の貴重な文化財等が多く分布している。また主な河川としては北から渚滑川、湧別川、常呂川、網走川といった一級河川がオホーツク海に注いでいる。

本沿岸は毎年、流氷が接岸する地域であり、近年では、流氷を観光資源として有効に活用している。



図 2.1.1.1 位置図

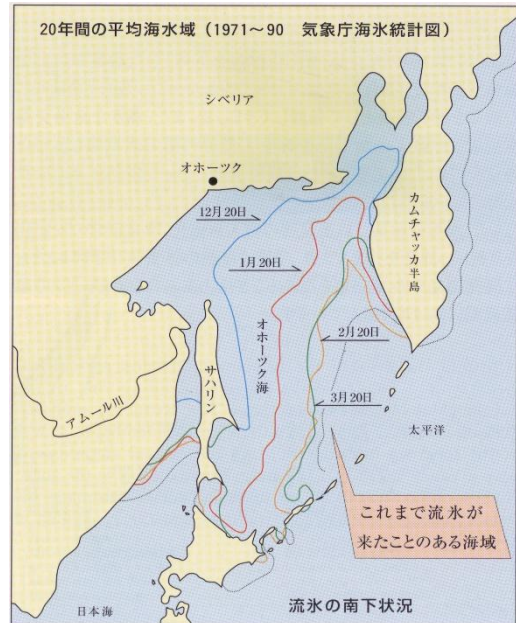
2.1.2 自然特性

気象

北見沿岸域はオホーツク海に面する海洋性気候である。春期から夏期にかけてはオホーツク海高気圧からの冷たい風にみまわれ冷涼であり、冬期は内陸部に比べ比較的温暖である。気温は年平均気温で約6~7°Cである。降水量は8・9月に多く、3~6月にかけて少ない。風速は冬期に強く、夏期に弱い。日照時間は道内でも長い地域であり、この特色を活かしたイベントなどが行われている。また1月下旬から3月にかけて、沿岸部では流氷により海面が覆われるという、オホーツク海特有の特色を持っている。(北海道の気候)

海象

北見沿岸の波浪特性は紋別港、網走港、宇登呂漁港の波浪観測によると、N系方向の波浪が卓越し、冬期波高が大きい傾向にある。潮位は紋別で満潮と干潮の差が140cm近くあり道内でも潮位差の大きい海域である。海流は春期から夏期にかけて宗谷岬からオホーツク海に流入する宗谷暖流、秋期から冬期にかけて樺太沿岸を南下する東樺太海流（寒流）の影響を受けている。また北見沿岸はオホーツク海に面しているため、1~3月までの約3ヶ月間流氷に閉ざされるという特徴を有している。



地形・地質

北見沿岸の陸域の地形をみると、山地は低山性の北見山地がオホーツク海に沿うように位置している。低地は徳志別川・幌別川・頓別川流域に平野が分布している。海岸線をみると頓別平野、サロマ湖周辺、小清水・斜里町周辺は砂丘が広がっており、枝幸町から紋別市にかけては海岸段丘が連なっている。

海域の地形は、宗谷岬東方で幅150km以上の日本周辺海域でも特に幅が広い大陸棚が位置している。大陸棚には数段の平坦面が認められ、外縁水深は140~170mである。地質は、海岸線沿いは主に砂、礫からなり、岩礁域は、宗谷岬周辺、枝幸町、能取岬、知床岬などに点在する。

水質

海域部では生活環境の保全に関する環境基準（3段階：A、B、C）で、紋別・網走海域が海域別にそれぞれA類型（COD2mg/l以下）、B類型（COD3mg/l以下）に指定されている。平成6～10年の観測値をみると、紋別・網走海域共にA類型に指定されている海域で環境基準値を越えている。

次に湖沼部をみると、生活環境の保全に関する環境基準（4段階：AA、A、B、C）で、サロマ湖がA類型（COD2mg/l以下）に、網走湖がB類型（COD3mg/l以下）に指定されている。平成6～10年の観測値をみると、平成6年にサロマ湖で環境基準値を越えているが、それ以外の年は環境基準値を満たしている。

また河川部では、生活環境の保全に関する環境基準（6段階：AA、A、B、C、D、E）で、徳志別川、湧別川がA類型（BOD2mg/l以下）に、頓別川、北見幌別川、興部川、渚滑川、常呂川、網走川、止別川、斜里川がB類型（BOD3mg/l以下）に指定されている。平成6～10年の観測値をみると、平成8、9年に止別川で環境基準値を越えているが、それ以外の年は環境基準値を満たしている。

海水浴場については、平成12年の調査によると海水浴場水質基準（5段階：AA、A、B、C、不適）で「オホーツクホワイトビーチ」がAA、「ところ常南ビーチ」がAと報告されている。

生物相

植生

北見沿岸は多くの地域が知床国立公園、網走国立公園、北オホーツク道立自然公園に指定されていることからわかるように貴重な植物、植生の宝庫である。

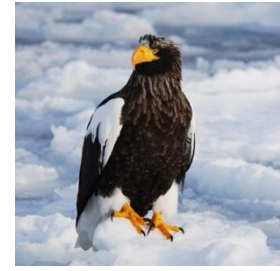
網走市の女満別湿性植物群落は国の天然記念物に、斜里町の斜里海岸草原群落、湧別町の佐呂間湖畔鶴沼アッケシソウ群落は道の天然記念物

に指定されている。また「自然環境保全基礎調査」（環境省）によると「原生林もしくはそれに近い自然林」として東浦トドマツ林、サロマ湖畔自然休養林、サロマ湖常呂カシワ林、オホーツクの森、能取岬トドマツ林、網走湖畔女満別ヤチダモ林、呼人のハンノギ・ヤチダモ林、知床周辺自然植生が特定植物群落に指定されており、ほかにも多くの特定植物群落が見られる。さらに、海岸線にはハマナス、ハマボウフウなどの身近な海浜植生も生育している。



陸域生物

鳥類についてみると、北見沿岸では濤沸湖、知床、浜頓別クッチャロ湖が国設鳥獣保護区に指定されているほか多くの道設鳥獣保護区があり、様々な鳥獣の生息地域になっている。知床半島では、シマフクロウ、オジロワシ、オオワシなどの貴重な鳥類が生息しており、濤沸湖、紋別市街のコムケ湖ではオオハクチョウをはじめ、オジロワシ、アオサギなどさまざまな野鳥が飛来している。またクッチャロ湖は「ラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）」に登録されており、ハクチョウ、ワシミズク、シマフクロウなどの生息域となっている。



また、「自然環境保全基礎調査」（環境省）では、哺乳類及び両生類、昆虫類、淡水魚類の調査が行われている。哺乳類は、ヒグマ、キツネ、タヌキ、エゾシカが確認されている。また、能取岬はアザラシの群生地となっている。

両生類は、「北海道レッドデータブック」（北海道、2001）留意種に指定されているエゾサンショウウオが浜頓別町、枝幸町、雄武町から網走市で生息が確認されている。

昆虫類は、「日本国内では、そこにしか産しないと思われる種」としてエトロフハナカミキリが斜里町で確認されている。



淡水魚は、「北海道レッドデータブック」（北海道、2001）希少種に指定されているイシカリワカサギ、留意種のイトヨ、トミヨ、希少種のイバラトミヨ、エゾトミヨが確認されている。

海域生物

海生魚類については「日本の希少な野生水性生物に関するデータブック」（水産庁編、1998）によると、危急種のニシン、希少種のマツカワが確認されている。

また、「自然環境保全基礎調査」（環境省）によると、北見沿岸では合計 1,400ha 以上の藻場が確認されており、そのほとんどがサロマ湖、網走湖に分布している。全体の 85% をアマモ場が占めており、コンブ場は、稚内市、猿払村、雄武町、興部町、紋別市、網走市、斜里町など岩礁域に分布している。

海岸景観

北見沿岸は森と湖と海が調和した四季折々の自然が豊かな地域であり、この自然を適切に保全するために、「知床国立公園」、「網走国立公園」及び「北オホーツク道立自然公園」に指定されている。知床半島の海食崖や滝、網走・能取・濤沸など大小七つの海跡湖、ハクチョウなどの水鳥類の大規模な飛来地となっているクッチャロ湖など様々な景観が見られ、特に冬期は流氷が接岸するなど他の沿岸ではみられない特色を持っている。

○ 知床国立公園

知床国立公園(38,633ha)は北海道の北東端に突き出た知床半島のほぼ北半分を区域とし、原始性の高い優れた自然景観を有する国立公園である。羅臼岳(1,661m)を主峰とし、硫黄山(1,563m)・知床岳(1,254m)など北東に連なる火山性の脊梁山脈が海食崖や滝を形成して直接海に落ち込み、人を寄せつけない厳しい地形を呈している。植生はハマナス・エゾスカシユリ等の海岸植物からエゾマツ・ミズナラ等の針広混交林、ダケカンバ林、ハイマツ・ガンコウラン等の高山帯まで標高に従い分布している。動物はヒグマ・エゾシカその他、シマフクロウ・オジロワシ等の貴重な野生動物の聖域となっており、冬期には流氷とともにトド・アザラシ・オオワシ等が渡来する。

公園内の大部分が特別保護区(23,526ha)、第1種特別地域(3,822ha)に指定されており、この優れた景観や自然の生態系が保全されている。

平成17年には知床半島と沿岸海域が世界遺産(自然遺産)に登録された。



知床岬



流氷と知床連邦

○ 網走国定公園

網走国定公園（37,561ha）は網走市周辺に位置する花々に彩られた国定公園である。わが国第3位の大きさを誇るサロマ湖をはじめとして、網走、能取、濤沸など大小七つの海跡湖が続いており、それらの湖畔には、センダイハギ、エゾリンドウ、スズラン、ヒオウギアヤメなどの花々が咲き競っている。海岸線に沿って広がる砂丘には、ハマナス、エゾキスゲ、エゾスカシユリなどの海浜植物が大群落を形作り、本州などでは見ることのできない原生花園となっている。また、秋期には能取湖周辺を中心にサンゴソウとも呼ばれるアッケシソウが、一面紅のじゅうたんとなって埋めつくしている。冬期はオホーツクの海に広がる流氷が見られる。



小清水原生花園



ワッカ原生花園

○ 北オホーツク道立自然公園

北オホーツク道立自然公園（3,927ha）は北海道北部のオホーツク海に面した自然公園である。クッチャロ湖・モケウニ沼などの天然湖沼が点在し、その周辺の湿原や海岸砂丘に広がるベニヤ原生花園など、広々とした北方的景観が特徴である。また、ハクチョウなどの水鳥類の大規模な飛来地となっているクッチャロ湖は、「ラムサール条約」の登録湿地である。



クッチャロ湖



ベニヤ原生花園

2.1.3 社会的特性

(1) 人口

北見沿岸市町村（4市7町1村）の人口は約25万人（令和2年度国勢調査）で、北海道の人口（約522万人）の約4.8%を占めている。

そのうち、北見市が11万5千人（沿岸域の約46%）、網走市が約3万6千人（同14%）、稚内市が約3万3千人（同13%）、紋別市が約2万1千人（同8%）と4市に沿岸域の8割以上の人口が集中している。市町村別の人口推移をみると、いずれの市町村においても減少傾向にある。

人口が全ての市町村において減少傾向にあるのに対し、総人口のうち65歳以上の高齢者が占める割合は全市町村で年々増加傾向にあり、高齢化が進みつつある。特に湧別町では39%、他の市町村でも30%以上と高い数値を示している。

(2) 産業

北見沿岸市町村（4市7町1村）の就業人口（令和2年度国勢調査）は、131,552人であり、全人口の約52%である。産業別には第1次産業が約12%、第2次産業が約19%、第3次産業が約69%という構成になっている。

猿払村、湧別町、枝幸町、雄武町などホタテ漁業の盛んな町村では他市町村に比べ漁業就業者数が多い。また、稚内市、紋別市、網走市など人口が多い市町村ほど第3次産業就業者数が多い傾向がある。

(3) 漁業

北見沿岸は、夏から秋には宗谷暖流、冬から春には東樺太海流（寒流）の影響を受け良好な漁場となっている。厳冬期には流氷が接岸し、操業ができなくなるが、水産資源の保護にも役立っていると考えられている。沿岸域はほとんどが砂浜地帯で、ホタテ貝の一大生産地となっている。

北見沿岸域における漁業は生産額で全道の2割弱、生産量で約1/3を占める。

令和5年度の生産量は40万7千トンで、魚種別の内訳は、ホタテ貝が72%、さけが10%、スケトウダラが9%を占める。また、生産額は1,029億円で、魚種別の内訳は、生産量と同様にホタテ貝がトップで56%と過半数を占める。



(4) 交通

道路

北見沿岸は約 409km の広大な海岸線に都市が散在するため、交通網として国道 3 路線（238 号、244 号、334 号）が海岸線沿いに整備されている。これらの道路は地域住民の利便性の向上、農林水産物の輸送の確保及び観光産業に重要な役割を果たしている。

鉄道

北見沿岸の鉄道は、JR 釧網線が網走－斜里間を海岸線沿いに走っており、地域住民の交通手段として重要な役割を果たしている。

航空

網走支庁圏には女満別空港・オホーツク紋別空港の 2 つの空港が整備されている。女満別空港からは新千歳、函館、羽田、名古屋、関西空港への各路線が、オホーツク紋別空港からは丘珠、羽田空港への各路線が就航している。

漁業・港湾

北見沿岸は良好な漁場であり、多くの漁港（第 1 種漁港：14 港、第 2 種漁港：16 港、第 4 種漁港：10 港）が整備されている。

また北見沿岸には、重要港湾が 2 港（紋別港、網走港）、地方港湾が 2 港（宗谷港、枝幸港）整備されている。紋別港では、オホーツク海特有の流水を活かし、流水に関わる総合的レクリエーション基地建設構想と連動した人工海浜レクリエーション緑地、流水を海底から見せる海中展望塔など通年利用可能な施設整備を図っている。また、大型国際貨物船に対応するための施設整備をはじめ、オホーツク圏域における物流の中核基地として港湾機能の拡充を図っている。

網走港は紋別港同様、オホーツク海沿岸における流通拠点港として地域経済における中心的な役割を担っている。今後は網走市のまちづくりと一体となった親水空間を形成するために積極的な整備が計画されている。



交通網図

(5) 歴史・文化

北見沿岸は、縄文文化から擦文文化、オホーツク文化まで、先人達の暮らしを今に伝える遺跡の宝庫である。特に北見市では 2,500 以上もの古代の住居跡が確認されており、現在も常呂川水系を中心に、遺跡が発掘されている。また国の史跡としては網走市の桂ヶ岡砦跡、最寄貝塚、常呂遺跡が指定されている。

また、知床半島の海岸線には蛇頭岩、五つ岩、観音岩、オシンコシン崎など伝説の奇岩や岬が存在する。



最寄貝塚



常呂遺跡

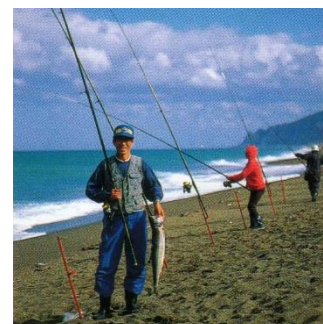
(6) 海洋性レクリエーション利用

北見沿岸の海洋性レクリエーション利用についてみると、海水浴場は枝幸町のはまなす海水浴場、北見市の常南ビーチ、興部町の沙留海水浴場、雄武町の日の出岬海水浴場、紋別市のホワイトビーチの 5 カ所が設置されており、沿岸域の多くの人々が短い夏を楽しんでいる。また、北見沿岸はサケ・マス釣りが非常に盛んな地域であり、多くの遊漁者を集めている。そのほかの海洋性レクリエーションとしてはシーカヤックが知床半島などで行われており、道外からもその人跡未踏の海岸地形を見に訪れている。ダイビングは冬期に流氷が接岸する特性を活かした流氷ダイビングが人気を呼んでいる。また一部サーフィンや水上バイクなども行われている。平成 12 年 3 月には漁港管理条例の改正により、漁業者等の関係機関との調整のもと、プレジャーボート利用に 13 漁港が開放されている。

さらに毎年各市町村で様々な祭が開催されており、紋別市の紋別流氷まつり、網走市のあばしりオホーツク流氷まつり、知床 S-1 グルメバトルなどが賑わいを見せている。



常南ビーチ（北見市）



釣り（浜頓別町）

(7) 海岸災害と防災

既往災害の実態

1) 一般災害

北見沿岸は台風や低気圧が引き起こす波浪によって越波、浸水の災害が多く発生している。猿払村では昭和 37、39、56 年に低気圧による湛水、家屋等被害に見舞われた。浜頓別町では昭和 48、59、63 年、平成元年に、雄武町では昭和 56、60、63 年、平成元年に低気圧による湛水、家屋等被害、海岸保全施設の被災に見舞われた。さらに湧別町では昭和 63 年、平成元、2 年に冬期波浪による湛水、家屋等被害、海岸保全施設の被災に見舞われている。

また湧別町、小清水町、斜里町等の海岸では土砂収支の不均衡による海岸侵食が生じている。



雄武地区海岸（雄武町）



東地区海岸（湧別町）

2) 地域の防災体制

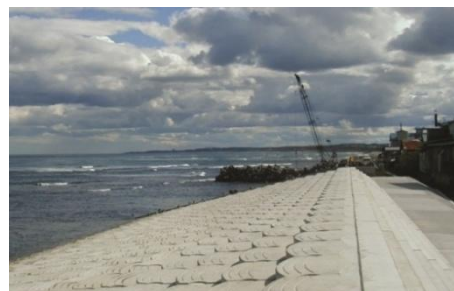
地域の防災体制としては、多くの市町村で地域防災計画を制定し、防災知識の普及、防災活動体制の整備等に取り組んでいる。また津波対策として、全ての市町村で避難地が設置されており、特に猿払村、枝幸町、湧別町、北見市では安全情報伝達施設が整備されている。（海岸ハンドブック、1999～2000）

海岸事業の変遷

北見沿岸の多くの海岸は昭和 31 年に海岸法が公布された後、海岸保全区域に指定され、昭和 40 年代～50 年代にかけて、護岸主体の線的防護方式による整備が行われてきた。

近年は枝幸海岸岡島地区、猿払海岸知来別地区等で波浪の減衰効果、侵食防止効果が高く、景観的にも優れた人工リーフと護岸とを組み合わせた面的護岸方式を採用し、安全性を高めた整備を行っている。また雄武海岸雄武地区、小清水海岸小清水地区、網走海岸鱒浦地区などでは緩傾斜護岸による整備が行われ、前浜へのアクセスの向上を図り、海とのふれあいの場として利用されている。

このように現在では、防災面だけではなく海岸の利用や自然環境にも配慮した海岸保全施設の整備が進められているところである。



雄武地区海岸（雄武町）

2.2 北見沿岸の問題点並びに長期的な課題と施策

2.2.1 海岸防護に関する事項

海岸の防護目標

目標

北見沿岸は、古来より自然と共に育まれた海域と陸域からなり、環境の急激な変化や海岸災害の発生、各種利用間の競合など、様々な問題が生じている。このため、これらの諸問題を解決するとともに、地域住民生活の健全な発展と国土の有効な利用を促進するため、安全な海岸づくりを進める必要がある。

防護すべき地域

本計画における防護すべき地域は、海岸保全施設が整備されていない場合に、防護水準として設定した波浪等による浸水や現在進行中の侵食により、海岸背後の家屋や土地に対して被害の発生が想定される地域とする。

また、津波に対しては「最大クラスの津波に比べ発生頻度が高く（数十年から百数年に一度程度）、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波（L1津波）」が発生した場合の浸水区域とする。

海岸防護に関する現状、課題及び施策

海岸保全施設の効果維持

□ 現状

- ・北見沿岸は冬期波浪や台風が引き起こす波浪によって越波、浸水の被害を受けている。このため、護岸や消波堤、離岸堤など海岸保全施設の整備が進められてきたところである。しかし保全機能が十分ではない地域が残っており、また既設の海岸保全施設の老朽化も懸念されている。

□ 住民の意見

- ・住民アンケートでは6割近くの住民が、海岸の災害について何らかの不安を持っている。今後の防災施設整備についても、大部分の人々が施設整備は必要であると感じている。

□ 課題

- ・背後地で生活する人々の安全を確保するために、所定の機能が不足している施設や老朽化している施設の改良および施設の新設など、より安全性の高い海岸保全施設による防護機能の向上が必要である。

□ 施策

- ・施設機能の適切な保持を図るための維持補修、また機能が不足している施設や老朽化している施設の改良を効果的に進めるとともに、建設コストと背後地への効果を勘案し、広範囲にわたり防護効果が発揮されるよう効率的な整備手法の検討を行う。
- ・海岸保全施設の日常的な点検や維持管理などについても損害や異常箇所の早期発見・補修などを図ることができるよう、継続的かつ適切に行う。

海岸保全施設整備における環境・利用への配慮

□ 現状

- ・北見沿岸はオホーツク海の良い漁場を活かした漁業の盛んな地域であり、多くの漁港が整備されている。また変化に富んだ長大な海岸線、すぐれた景観などの自然環境に恵まれており、それらを活かした観光、海洋性レクリエーションが行われている。

□ 住民の意見

- ・住民アンケートでは、現在の海岸の防災施設について自然や周辺の景観の調和に欠けていると感じている人が多く、今後の施設整備については自然環境に配慮した整備が特に望まれている。
- ・縦覧意見についても環境・利用面に配慮した海岸保全の要望があがっている。

□ 課題

- ・海岸保全施設の整備に際しては、背後地の保全などの防護面だけでなく、漁業への影響、豊かな自然環境や景観の保全、観光や海洋性レクリエーションの利便性など多面的な配慮が必要である。

□ 施策

- ・海岸の防護のみを目的とするものではなく、利便性にも配慮し、緩傾斜護岸の整備といった海岸へのアクセス性の向上にも配慮する。
- ・美しい景観、優れた消波機能を持つ砂浜や、海浜植生も含めた自然海岸の維持に十分配慮し、より高質で安全な海岸整備を行う。

砂浜の保全

□ 現状

- ・北見沿岸では土砂収支の不均衡による海岸侵食が生じている。海岸侵食が進むと陸地への浸水被害等が広がるほか、護岸、堤防等の海岸保全施設の基礎を洗掘してしまうため、施設の機能低下の要因ともなる。また砂浜は天然の防災機能、海水浄化機能をするほか、各種の動植物の生息・生育環境や人々の利用の場としても重要な役割を果たしている。海岸侵食対策として、網走建設管理部ではオホーツク海沿岸海岸侵食対策検討連絡調整会議を開催し、令和2年度から試験養浜及びモニタリング調査を実施している。

□ 住民の意見

- ・住民アンケートでは、半数以上の人々が10年前と比較して砂浜が狭くなったと感じている。多くの住民が海岸侵食に対し不安を抱いている。
- ・縦覧意見では、特に紋別市、湧別町の住民から「海岸侵食」に関する意見が多く、広域的な観点からの侵食対策、環境・利用に配慮した砂浜の保全が望まれている。

□ 課題

- ・海岸侵食の対策としては、沿岸漂砂の連続性を勘案するとともに流域の源頭部から海岸までの一貫した領域での土砂収支の定量的な把握を行う必要がある。

□ 施策

- ・海岸侵食に関する調査研究により広域的な土砂収支の把握及び、侵食原因の解明を図るとともに関係機関と連携した対策を検討する。
- ・緊急性を要する海岸については、早急に海岸保全施設の整備を行う。

防災ソフト対策の充実

□ 現状

- ・北見沿岸では過去に冬期波浪や台風が引き起こす波浪によって越波、浸水の被害を受けている。そのため、住民の生活と財産を守り、安心して暮らせる災害に強いまちづくりのため、地域防災計画の策定など各市町村で防災知識の普及、防災活動体制の整備などに取り組んでいる。

□ 住民の意見

- ・住民アンケートでは、半数以上の人々が何らかの災害に不安を抱いており、津波災害に対するハザードマップの作成、避難体制の確立が望まれている。

□ 課題

- ・越波や浸水の災害に対する防護は海岸保全施設の整備だけでなく、緊急時の避難経路の確保、災害発生時の迅速・適切な情報の収集や発信などソフト面における対策などが必要である。

□ 施策

- ・越波や浸水の災害に対しては海岸保全施設の整備だけでなく、地域と連携して災害発生時の迅速・適切な情報の収集や発信、危険区域の設置などソフト面における対策を行う。
- ・地域住民の防災意識の向上及び防災知識の普及を進め、地域住民が安心して暮らせる地域づくりを支援する。

2.2.2 海岸環境に関する事項

海岸環境に関する現状、課題及び施策

沿岸域における動植物の生息・生育環境の保全

□ 現状

- ・北見沿岸はすぐれた自然の風景地で、その保護及び利用の増進を図る必要がある地域として知床国立公園、網走国定公園、北オホーツク道立自然公園に指定されており、その中で多種多様な生物相など優れた生態系を有している。また世界自然遺産に登録されている知床国立公園や国の天然記念物に指定されている女満別湿原植物群落をはじめ、原生花園や特定植物群落など多くの貴重な植生が分布している。
- ・北見沿岸にはオホーツク海の良い漁場が多く存在している。特に砂浜地帯はホタテの一大生産地となっており、漁業生産の面から見ても、その生息・生育環境の保全は重要である。
- ・砂浜には、ハマナス・ハマボウフウなどの海浜植生が分布しており、砂浜に生息する昆虫類などにとって重要な生息環境となっているが、一部では海浜植生が減少している。
- ・北見沿岸は鳥類の宝庫であり天然記念物に指定されているオジロワシ、オオワシが生息している。特にハクチョウなどの水鳥類の大規模な飛来地となっているクッチャロ湖は「ラムサール条約」に登録されており、湿地に生息する動植物の保護及び自然環境の保全と適正利用の国際レベルの推進が求められている。
- ・北見沿岸には多くの藻場・干潟が存在しており、生物の生息・生育域として重要な役割を果たしている。しかし埋立等の直接改変などの理由により一部で減少がみられる。
- ・北海道に隣接するサハリン北東沖では、多国籍企業による石油・天然ガス開発プロジェクトが、地震の多発や流氷など厳しい気象条件の下に進められている。今後開発計画の進展に伴って、オホーツク海、宗谷海峡及び日本海において、タンカー等の航行に伴う事故や原油生産施設（掘削基地）の事故の際、本道への影響が危惧されている。

□ 住民の意見

- ・住民アンケートでは、10年前と比較して海岸の緑や砂浜が減少していると感じている人々が多く、海浜植物、原生花園等の環境への配慮が望まれている。また、北見沿岸の豊かな風景、動植物を後世へ残したいと考えている。
- ・油流出事故の際の海、海岸への影響を懸念する意見や油流出事故への対策を望む意見がある。
- ・北見沿岸縦覧意見では、自然と共生する海岸、動植物の生態調査の実施や保全対策が望まれている。

□ 課題

- ・沿岸域の優れた生態系は漁業や観光、レクリエーション面にとっても貴重な財産であり、21世紀以降に守り育てていくことの重要性は極めて高い。そのため海域、陸域を含めた沿岸域に生息・生育する動植物及びそれらの生息・生育環境の保全が必要である。
- ・生物の重要な生息域である藻場や干潟は水質汚濁等の海洋汚染や人為的行為による影響を受けやすく、その保全が必要である。
- ・サハリン北東沖における石油・天然ガス開発プロジェクトに係わる油流出事故が発生した場合、魚介類をはじめとして、微生物、底生生物、プランクトン、鳥やこれらの生物の重要な生息域である藻場や干潟に多大な悪影響を及ぼすことが予想されるため、その対策が必要である。

□ 施策

- ・優れた自然環境は、生活はもとより、漁業や観光、レクリエーションなどの産業にとってもかけがえのない貴重な資源であり、人々に憩いと安らぎを供与する存在として重要であることから、現存する藻場、特定植物群落及び海浜植物、貴重な鳥類の生息する自然環境などに十分配慮する。
- ・地域や関係機関と連携して油流出事故に迅速に対応する。

海岸景観の保全

□ 現状

- ・北見沿岸はすぐれた自然の風景地で、その保護及び利用の増進を図る必要がある地域として知床国立公園、網走国定公園、北オホーツク道立自然公園に指定されている。
- ・北見沿岸は知床岬・岩尾別等の海食崖、サロマ湖・網走湖等の湖沼景観、小清水海岸・ベニヤ海岸等の原生花園、流氷・ハクチョウ等の冬季特殊景観、ウスタイベ・神威岬等の海岸景観などオホーツク海沿岸の雄大な景観をなしている。しかし近年、構造物の増加などにより景観の悪化が懸念されている。
- ・北見沿岸は紋別市から小清水町を中心に砂浜が多く存在するが、海岸侵食により砂浜が減少している。
- ・北見沿岸では流木や沿岸に漂着するゴミにより景観が悪化している。

□ 住民の意見

- ・住民アンケートでは、住民は砂浜、原生花園、自然等の風景を後世に残したいと感じている。また、住民が抱く北見沿岸の海岸のイメージは砂浜、岩場といった自然の海岸風景であり、景観の保全が望まれている。

□ 課題

- ・知床半島の海食崖、サロマ湖・網走湖等の湖沼景観、小清水海岸・ベニヤ海岸等の原生花園、流氷・ハクチョウ等の冬季特殊景観など美しい海岸景観は、精神的に安らぎを与えるだけでなく、観光資源として地域の活性化にも重要な役割を果たしている。そのため、美しい海岸景観の保全が必要である。
- ・砂浜は景観上にも優れ、また波浪を軽減し、陸域への波の進入を防ぐという防護面でも重要である。そのため砂浜の維持を図る必要がある。
- ・海岸景観に悪影響を及ぼす流木や海岸に漂着するゴミなどの対策が必要である。

□ 施策

- ・沿岸域における構造物の設置については、周囲に威圧感や閉鎖感などを与えないよう、色彩・素材・緑化などの工夫により修景し、自然景観への影響を極力抑えるように努めるなど、優れた海岸景観を損なわれることのないように、整備を行う際に十分配慮する。
- ・景観上にも優れ利用、防護面でも重要な砂浜の維持に配慮する。
- ・流木など漂着ゴミ対策を検討する。

海岸共生意識の啓発・活動の支援

□ 現状

- ・北見沿岸は雄大で神秘的な自然豊かな景勝地が存在し、多種多様な生物相など優れた生態系を有している。しかし、近年の海岸利用者の増加とともに、砂浜、岩場でのゴミの増加がみられ、景観の悪化が問題となっている。
- ・北見沿岸における COD 値は年々高くなっており、水質悪化による藻場、干潟への影響が懸念されている。

□ 住民の意見

- ・住民アンケートでは、半数近くの人々が 10 年前と比較して、海面のゴミや油、砂浜・岩場のゴミが多くなったと感じている。海岸利用の際の不満では、ゴミの散乱による不満が最も多い。

□ 課題

- ・ゴミ問題は地域と一体となった日常的な海岸管理が求められており、これらの海岸景観、生態系を保全する海岸共生意識の啓発・活動の支援が必要である。
- ・水質汚濁等の海洋汚染は魚介類や鳥類等の生物の重要な生息域である藻場や干潟に悪影響を及ぼす。そのため地域住民が自発的に海洋環境に関心を持ち、生活の中で海と人との関係を考えていくことができる環境づくりが必要である。

□ 施策

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・地域と連携してゴミ対策、海岸愛護活動、環境教育活動の支援を進めながら、地域住民及び利用者の海岸共生意識の向上を図る。 |
|---|

歴史・文化の保存継承の支援

□ 現状

- ・北見沿岸は擦文文化やオホーツク文化など、様々な時代の遺跡を数多く有している。国指定の史跡としては網走市の桂ヶ岡砦跡、最寄貝塚、北見市の常呂遺跡がある。これらの様々な文化財は北見沿岸のみならず北海道全体の財産として貴重である。

□ 住民の意見

- ・住民アンケートでは、最寄貝塚、オムサロ遺跡等の沿岸域に分布する歴史的建造物・文化財の保全が望まれている。

□ 課題

- ・これら文化財の保全は未だ十分とはいえない。沿岸域に暮らす人々にとって海は日常生活における重要な空間であり、受け継がれてきた貴重な財産の保全が望まれている。そのため海岸が育んできた歴史、風土、地域文化を良好な状態で後世へ保存・継承する必要がある。

□ 施策

- ・地域住民にとって北見沿岸の歴史的風土の継承は、生活環境はもとより、観光資源としても重要である。こうした豊かな文化の保全は困難となることが多く、そのため、受け継がれてきた貴重な財産の保全、歴史・文化の保存継承について啓発活動を支援する。

2.2.3 海岸利用に関する事項

(8) 海岸利用に関する現状、課題及び施策

多様化する利用の調整

□ 現状

・北見沿岸は漁業生産の場、生活の場、産業の場、レクリエーションの場、交通・運輸の場など多様な利用が行われている。沿岸域は古くから漁業の盛んな地域であり、多くの漁港が整備されている。また海面はホタテ貝の一大生産地として活用されている。重要港湾に関しては紋別港、網走港が整備されており、主要な流通拠点として地域経済における中心的役割を果たしている。また、観光客も多く訪れており海水浴、釣り、ダイビング、シーカヤックなどの海洋性レクリエーションも行われている。

□ 住民の意見

・住民アンケートでは、釣り客等の海岸利用者へのマナーの向上を望む声が多い。また、漁業の場としての海岸だけでなく、一般市民も磯遊び等ができる海岸が望まれている。

1.

□ 課題

・様々な目的で海岸利用が活発になると、多様な人々が海岸を利用するようになり、その利用を巡るトラブルの発生が予想される。そのため、今後より利用が多様化してくる沿岸域において、地域住民も一体となった各種活動間での適正利用に関する調整、利用者のモラル向上が必要である。

2.

□ 施策

・今後、より利用が多様化してくる沿岸域において、地域住民も一体となった海岸利用に関するルールを作り、利用者に対するマナー啓発活動などを支援する。

海岸利用サービスの充実

□ 現状

- ・沿岸域に暮らす人々にとって海岸は身近な存在であり、日常生活における「自然散策、散歩、ジョギング」の場としての利用がなされている。また、沿岸には多くの観光客や釣りなどの海洋性レクリエーションを楽しむ人々が訪れている。しかし、それら利用者へのサービス機能はいまだ十分とはいえない。
- ・北見沿岸は、知床国立公園、網走国定公園、北オホーツク道立自然公園など多彩な自然と恵まれた資源を活かし多くの観光客を集めている。また、現在各市町村では地域活性化に向けた「オホサイ」や「サロマ湖 100 kmウルトラマラソン」などの広域イベントや祭りなどに取り組んでいるが、1年を通じて安定した集客を図るための展開が求められている。

□ 住民の意見

- ・住民アンケートでは、海岸利用の際の不満はゴミの散乱に次いで、トイレ・シャワー、駐車場、公園・緑地等の利便施設についての不満が多く、今後はこれらの施設の量・質の向上が望まれている。

□ 課題

- ・誰もが気軽に海岸に触れられるよう汀線・前浜へのパブリックアクセスを確保・改善することが必要であり、さらに観光、レクリエーション利用が盛んな海岸を中心に利便施設の不足解消、質の向上を図ることが必要である。
- ・今後ますます進んでいく高齢化社会に対応して高齢者はもちろん障害者にも配慮したバリアフリー化など、誰もが利用しやすく海岸で憩うことができるふれあいの場としての海岸づくりが必要である。
- ・地域の大きな特徴である流氷を活かした冬期観光、また豊かな自然を生かしたマリントーリズムや体験・学習活動、カヌーやサケ釣り体験などの体験滞在型観光を促進するための地域が一体となった取り組みを進めていく必要がある。

□ 施策

- ・地域と連携して高齢者・障害者を含め誰もが利用しやすく海岸で憩うことができる環境づくりを行い、利便性、快適性の向上を図る。
- ・流氷を活かした冬期観光、各市町村のイベント、マリントーリズム、漁業体験・学習活動またカヌーやサケ釣り体験などの積極的な支援、地域住民によるボランティア活動支援などを行う。